

2020年7月19日

「はじめてのキリスト教」説教要約

## キリストが遣わした人々

(マルコ6・7・13)

### 一、二人ずつ遣わされた

7節をご覧ください。〈また、十二人  
を呼び、二人ずつ遣わし始めて、彼らに  
汚れた霊を制する権威をお授けになっ  
た。〉とあります。〈十二人〉は、主イエ  
スが使徒として選び、任命した、特別な  
弟子たちです。主イエスは十二人を、二  
人ずつ遣わされました。なぜ、二人だっ  
たのでしょうか。理由は書かれていま  
せん。

新約聖書を見ますと、二人を遣わし  
たと書かれている箇所が多いです（使  
徒8・14、13・2）。ですが、なぜ遣わ  
したのが二人であったのか、良く分か  
りません。ちなみにパウロは、しばしば  
複数で行動しましたが、一人で行動し、  
福音を語ることもありました。ですが  
から、伝道するときは二人一組で遣わさ  
なければいけない、などという原則は  
作られません。

むしろ、こういう事を学んだらいか  
がでしょうか。それは、福音宣教は一人  
ではできないということですが、パウロ  
が解き明かしたように、キリストの  
からだである教会が、それぞれの賜物を  
活かしてキリストを伝えて行く。それが  
大切かと思われまます。たしかに、自分

にとつて苦手な人がいます。また、相手  
の方がなぜか自分を嫌がるということ  
もあります。しかし複数で伝道をする  
なら、様々な方に福音が届くわけです。  
あるいは、自分が思いつかないことを、  
別の教会員が思いつくこともしばしば  
あります。賜物のちがいです。

### 二、遣わされた者の生活

続いて、8節、9節を見てまいります。  
〈そして、旅のためには、杖一本のほか  
何も持たないように、パンも、袋も、胴  
巻の小銭も持って行かないように、履き  
物ははくように、しかし、下着は二枚着  
ないようにと命じられた。〉とあります。

これは、当時の人々が旅をする際の  
必要最小限、否、それ以下の身支度でし  
た。蛇や野獣のいる中での移動となり  
ますから、杖と履き物は、身の安全のた  
めに、どうしても必要でした。ところが、  
パンと小銭を持って行くなどなりま  
すと、覚悟が必要になってまいります。  
なぜなら、福音を伝える者の必要は、主  
が備えてくださるからです。主が備え  
てくださるといいますが、実際に天  
からパンが降ってくるわけではありま  
せんし——荒野に導かれたイスラエル  
の民には天からのマナが与えられまし  
たが——、小銭も天から降ってくるわ  
けではありません。神は人を用いられ  
ます。キリストの福音が語られるため  
に、神は私たちを用いられます。同様に、

私たちの必要を満たすために、神は志  
のある方々を用いられます。

では、キリストによって遣わされた  
人たちの必要に応えたのは、だれだっ  
たのでしょうか。10節をご覧ください。  
〈また、彼らに言われた。〉どこでも  
一軒の家に入ったら、その土地から出  
て行くまでは、その家にとどまりな  
さい。〉と、主イエスはおっしゃいました。

もちろんこれは、当時のユダヤ、ガリラ  
ヤにおいて可能だったことなのであり  
ましょう。今日においては、そのまま適  
用できません。ですが、原則的なことな  
ら、汲み取ることができます。たとえば、  
教会が伝道チームを受け入れて、教会  
の人たちの家にホームステイするとか、  
あるいは反対に教会が伝道チームを組  
んで、どこかの教会を拠点として奉仕  
する時です。

### 三、遣わされた者の覚悟

しかし、受け入れる側が拒絶した場  
合、こうしなさいと語られているのが、  
11節です。〈あなたがたを受け入れず、  
あなたがたの言うことを聞かない場所  
があつたなら、そこから出て行くときに、  
彼らに対する証言として、足の裏のちり  
を払い落とすなさい。〉と。なぜ、この  
ようにはつきりとした態度を取るよう  
に、主イエスは語られたのでしょうか。  
その理由は、主イエスが遣わされた使  
徒たちは、7節の後半に書かれている

ように、汚れた霊を制するために権威  
を授けられた人たちだからです。した  
がいて、主イエスが遣わされた人  
を受け入れないことは、主イエスを、ひ  
いては神を受け入れないことになりま  
す。

そういうわけで、使徒たちを受け入  
れなかった場合、〈そこから出て行くと  
きに、彼らに対する証言として、足の裏  
のちりを払い落とすなさい。〉と語られ  
ているわけです。〈足の裏のちりを払い  
落とす〉という仕事は、ユダヤ人が異教  
徒の地域から帰ってきたときに、あら  
ゆる汚れを振り払うために行っていた  
行為であつたとのことですが。

私たちは、自分たちがキリストを伝  
え、多くの悪霊を追い出すために主イ  
エスによって遣わされているという意  
識を、もつと強く持つ必要がある、と受  
け止める必要があるのではないでしょ  
うか。もちろん現実においては、「主イ  
エスが遣わされた私を受け入れない者  
は、私を遣わされた主イエスを受け入  
れないことです」などと、性急に答えを  
出すようなことはできません。ですが、  
あまりにも優柔不断になつて、「イエス  
さまを信じてでも信じなくてもかまいま  
せんよ」と思うのは、主の御意思から外  
れていると思われまます。

主が私たちを遣わしておられる、と  
いう意識を持って、今一度気を引き締  
めて歩んで行くことではありませんか。